



平成29年度

授 業 計 画



福島学院大学大学院  
心理学研究科こども心理専攻



## 福島学院大学の教育

### I. 建学の精神

本学は学則第1条に、『教育基本法、学校教育法に則り、学院創立者の信念である「真心こそすべてのすべて」という建学の精神に基づきSincerity（真心）とHospitality（思いやり）を教育の根本におき、広く知識を授けるとともに、専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的および応用的能力を展開させ、職業及び實際生活に必要な人材を育成することを目的とする』とうたっております。

「真心こそすべてのすべて」これを身につけた学生の育成こそは、本学の創立者故菅野慶助先生・菅野八千代先生の建学の理想であります。

#### (1) 真心

真心とはいうまでもなく、誠とか至誠とか呼ばれるものと相通じ、一般的な考え方を示すものとして、広辞苑では、「誠の心。いつわりのない真実の心。」と記しています。また、「誠」の項では、「真」、「実」などの文字とともに、「真実の通りであること。うそでないこと」、また、「人に対して親切にして欺かぬこと」としております。

このようにして、真心は先ず、自己に対していつわりのないこと。すなわち自らの良心の声に聞いて恥じないことを意味しています。

誠実・信用・信頼ということは今日の社会では最も大切なことです。誠実・信用・信頼がなくなれば、いかに立派な企業や人も社会的に存在できないからです。

#### (2) すべてのすべて

以上のような意味の真心こそは、人間の行為や社会生活のすべてを貫くものでなければならぬのであって、菅野慶助先生が「一にも真心、二にも真心」と述べておられるのはこのことを指すのであります。

さらに、真心はすべての徳の中でも根本に位するものとして、これらをとらえることができます。この二つの意味を込めて「すべてのすべて」と言っているのです。

#### (3) 信念のことば

真心を以上のように誠、至誠と解するとき、それは先ず、儒学における重要な概念として、儒学者の諸説があり、また、国学においても「真心」について説くところがあります。さらに、その他の倫理・哲学者においても説きかたは種々でありましょう。

しかし、本学における言葉並びにその精神は、創立者菅野先生の日常の実践の中において体得されたものであり、また、これを体現すべく努めに努めた体験の中から生まれてきた信念であって、思弁的な産物ではありません。

したがって、この言葉の真の意味は、菅野先生がこれまで歩んできた「足あと」そのものの中から見出すことができるものと言って過言ではありません。

本学においては、真心とその実践を基盤とする国際平和の実現のための教育を、ひとつの特色として打ち出しており、これもまた、菅野先生の信念から生み出されたものです。

われわれは、建学当初の「真心こそすべてのすべて」の精神を基本として、人々の信頼と幸福を求め、さらに、世界平和の実現のための教育の重視へと発展してきたその経緯をたずね、さらに将来を展望し、建学の精神の高揚に努めなければなりません。

## Ⅱ. 教育の理念

本学は、感銘と感動を与え、知的好奇心を喚起する授業の実施を目指すとともに、自らの人生を創造的に生きようとする学生を受け入れ、支援します。

本学が求め、そして育成しようとする人間像については次の通りです。

- (1) **真心を持って人に接し、人の立場を考えて行動できるひとを育てます。**  
真心は人間社会を築く礎であり、人間関係の基本です。  
心のこもった対応や接遇を心掛け、相手や他人の立場を理解しようとする謙虚さを失うことなく行動ができる人間を育成します。
- (2) **夢とロマンを胸に、自らの人生を創造的に生きようとするひとを育てます。**  
夢をもって生きること、浪漫を求めて生きること、その実現に努力すること、それは自らの青春を美しく磨くことです。夢やロマンがあればどんなに苦しい時代でも生きていけるのです。
- (3) **的確な判断ができ、自らの知識と技能を生かして社会に貢献できるひとを育てます。**  
的確な判断は、現代社会に必要な知識と教養の獲得と、社会のいろいろな人との多様な人間関係の錬磨の中から生まれてくるものです。  
自らの知識を深め、自らの技能を高めて、社会に貢献できる人材の育成につとめます。
- (4) **国際的な視野に立ち、多様性を理解し、相互理解の心を持つひとを育てます。**  
情報は一瞬にして世界を駆け巡ります。世界は日本に、日本はまた世界へ影響を与えます。国際的な視野に立って相手のことを理解することのできる人間の育成につとめます。
- (5) **感動と感激を素直に表現できるひとを育てます。**  
感動と感激のある人生ほど素晴らしいものではありません。  
一つひとつの発見や驚きが、人生に若さと新鮮さを与えてくれます。そうしたひとを育てる教育でありたいと思います。

こうした学生を育成することを建学の精神として掲げ、本学はこれを学是としています。

# 目次

福島学院大学の教育		1
目次		3
こども心理専攻の教育		4
カリキュラムツリー		5
現代こども事情関連科目		
現代家族事情特論	梅宮れいか	9
現代こども事情特論	請川滋大	11
現代保育者事情特論	高橋貴志	13
現代地域福祉事情特論	日下輝美	15
こども心理関連科目		
幼児発達心理学特論	平野幹雄	17
臨床心理学特論	渡部敦子	19
発達臨床学特論	梅宮れいか	21
教育心理学特論	梅宮れいか	23
家族心理学特論	渡部敦子	25
発達臨床心理学特論	西村學	27
心理カウンセリング演習	杉山雅彦	29
心理学研究法特論	内藤哲雄	31
こども発達障害関連科目		
精神医学特論	星野仁彦	33
発達障害学特論Ⅰ	星野仁彦	35
発達障害学特論Ⅱ	織田正昭	37
発達障害児心理学特論	板垣健太郎	39
発達障害児心理学演習	板垣健太郎	41
音楽療法	佐藤敦子	43
自由研究		
自由研究Ⅰ	田辺稔 梅宮れいか	45
自由研究Ⅱ	田辺稔 梅宮れいか	47
課題研究		
課題研究Ⅰ	田辺稔 西村學 板垣健太郎 梅宮れいか 織田正昭	49
課題研究Ⅱ	田辺稔 西村學 板垣健太郎 梅宮れいか 織田正昭	51
修士論文		
修士論文	田辺稔 西村學 板垣健太郎 梅宮れいか 織田正昭	53

## こども心理専攻の教育

### 大学院心理学研究科こども心理専攻における教育研究及び人材養成の目標

本大学院心理学研究科は、心理学領域の理論および応用を教授研究し、高度で専門的な実践能力と研究能力を養い、心の問題の今日的な課題に対応できる心理的支援に習熟した人材を養成します。

こども心理専攻は、乳幼児期および児童期における、こどもの保育・教育上の今日的課題および個別的課題を研究し、こどもおよび保護者、家族への心理相談や心のケアを通じて、保育教育の現場に役立つ人材の育成を目指すことを目的としています。

### カリキュラムポリシー

こども心理専攻は、乳児期から児童期における、こどもの保育・教育上の今日的課題および個別的課題に対応できる心理的援助支援の内容を学修します。現職者として現場における経験、体験に応じて自主的、自立的能力を涵養することを目的として、討論形式もしくはケーススタディ、PBLを導入した授業などで進める中で修士論文にまとめる指導をします。専攻分野の研究能力を育てるため、現代こども事情関連、こども発達障害関連、こども心理学関連の3科目分野で教育課程を編成しています。

### 授業の実施場所と時間

こども心理専攻の授業は、原則として宮代キャンパスにおいて実施します。

授業は1コマ90分で、平日の6時限目（17:50～19:20）、7時限目（19:30～21:00）に実施します。

集中講義は、1日5コマ（9:40～18:30）を3日間実施します。集中講義の日程は、別に配布する学事日程表で確認してください。集中講義は、福島駅前キャンパスでの開講です。

こども心理専攻では、臨床心理学専攻と合同開講で福島駅前キャンパスで開講する授業もあります。どの科目が福島駅前キャンパスで開講となるかは、時間割で確認してください。また、宮代キャンパスで開講されるテレビ会議システムを使った授業は、しらゆり館第1演習室での実施です。Skypeでの授業も同じ時間帯ですので開始時間までにログインを済ませてください。

# カリキュラムツリー

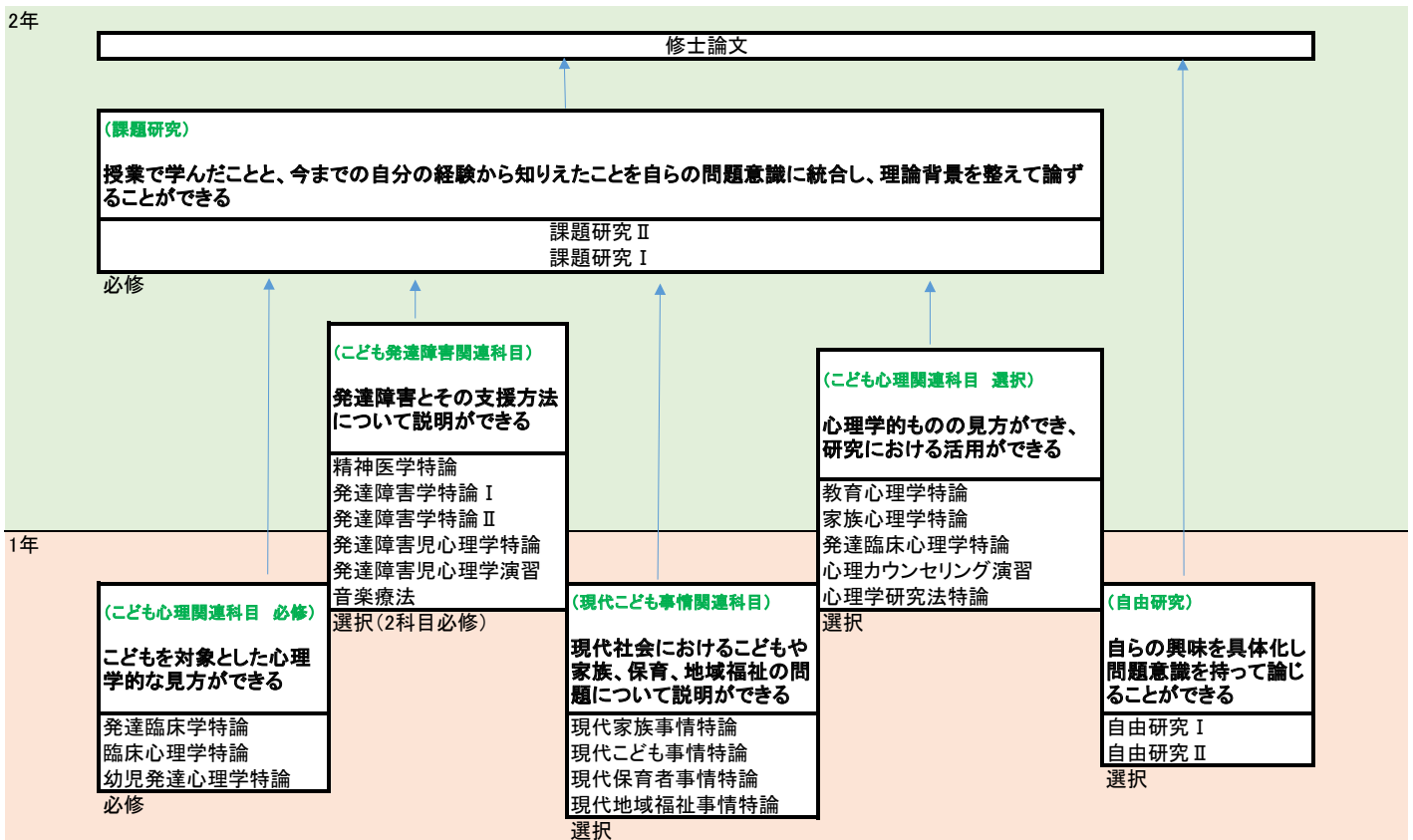
## 心理学研究科こども心理専攻 カリキュラムツリー

人材育成の目標

乳幼児期および児童期におけるこどもの個別的課題や保育・教育上の今日的課題を研究し、こどもの発達支援だけでなく、保護者、家族への心理相談や心のケアもできる保育・教育現場でのスペシャリストを育成する。

学修成果

- 1) 保育・教育の現場において、こどもの発達や保護者、家族が抱える問題に対応できる知識を身につけている。
- 2) 保育・教育の現場が抱えるさまざまな課題を解決して行ける、多角的な視点と応用力を身につけている。
- 3) 保育・教育の現場における経験、体験に応じて自主的、自立的に研究ができる。



# 教育課程

科目区分	授業科目の名称	配当年次		単位数		授業形態		授業回数	開講キャンパス	備考
		年次	学期	必修	選択	講義	演習			
現代こども事情関連科目	現代家族事情特論	1	後		2	○		1 5	宮代	
	現代こども事情特論	1	前		2	○		1 5	宮代	隔週
	現代保育者事情特論	1	後		2	○		1 5	駅前	集中
	現代地域福祉事情特論	1	後		2	○		1 5	駅前 (skype 併用)	
こども心理関連科目	幼児発達心理学特論	1	前	2		○		1 5	宮代	隔週
	臨床心理学特論	1	前	2		○		1 5	宮代	
	発達臨床学特論	1	前	2		○		1 5	宮代 (skype 併用)	
	教育心理学特論	1・2	前		2	○		1 5	TV 宮代	
	家族心理学特論	1・2	前		2	○		1 5	駅前	集中
	発達臨床心理学特論	1・2	後		2	○		1 5	宮代	
	心理カウンセリング演習	1・2	後		2		○	1 5	駅前	集中
	心理学研究法特論	1・2	前		2	○		1 5	TV 宮代	
こども発達障害関連科目	精神医学特論	1・2	前	↑ 選択必修2科目4単位 ↓	2	○		1 5	駅前	集中
	発達障害学特論Ⅰ	1・2	後		2	○		1 5	駅前	
	発達障害学特論Ⅱ	1・2	後		2	○		1 5	駅前	
	発達障害児心理学特論	1・2	後		2	○		1 5	駅前	
	発達障害児心理学演習	1・2	後		2		○	1 5	駅前	
	音楽療法	1・2	後		2		○	1 5	駅前	
自由研究	自由研究Ⅰ	1	前		2	○		1 5	宮代	
	自由研究Ⅱ	1	後		2	○		1 5	宮代	
課題研究	課題研究Ⅰ	2	前	2		履修順序の 制限有り				時間外
	課題研究Ⅱ	2	後	2		Ⅰ→Ⅱ				時間外

修士論文	修士論文	最終 年次		修了必修 論文審査と口頭試験
------	------	----------	--	----------------

## 成績評価について

成績評価は、以下の共通理解を基準とし、各教員が設けた採点項目とその配点割合に従って公正に行われます。

### 評価に関する共通理解

授業方法、1年間の授業計画、学修の成果に係る評価の基準等を、次の付帯的措置を参考としてシラバスに明示するとともに、学生に対して最初の授業の際に説明する。なお、成績評価点数は100点満点とする。

1. 授業内容に関係のない私語、もしくは授業の流れを阻害する学生の私語は注意は回につき1点減点、同一学生の注意が3回以降は1回につき2点減点とする。ただし、必要と判断した場合は履修制限に関する細則に従い、退席指示、履修取消などの措置をとるものとする。
2. 遅刻・早退・欠席
 

遅刻・早退1回につき1点減点、欠席1回につき3点減点とする。

ただし、遅刻・早退3回で1回の欠席とされた者の場合は、その欠席とした分については減点しない。

ただし、次の場合の遅刻または欠席は減点の対象とはしない。なお、該当学生は該当項について「事由書」を文書（書式自由）で、事前に判明した場合は事前に、当該授業後の場合は事後に各授業担当教員に提出するものとする。

  - ① 学内外における本学所定の実習に参加する場合
  - ② 学校保健安全法の規定に基づく学長による出席停止の指示に従う場合
  - ③ 裁判員制度による裁判員に選任された場合
  - ④ 就職試験や面接を受験する場合
  - ⑤ 公共交通機関の遅延や運休による場合
  - ⑥ 悪天候または事故等によりやむを得ない場合
  - ⑦ 親族の不幸等やむを得ない場合
3. 欠格
 

定められた授業回数の3分の1を超える回数を欠席した場合は、前号①から⑦までの場合を含めて欠格とし、期末試験への出席を認めず、単位認定は行わないものとする。
4. 質問応答
  - ①指名応答
 

指名した学生が質問に適切に応答したと認めるとき、その内容の評価に応じ1回につき1～2点加点とする。

質問に不適切な応答をしたと認めるとき、または質問に答えられえなかったとき、1回につき1点減点とする。
  - ②自発的応答
 

教員の質問に対して自ら挙手するなど学生が自発的に適切に応答したと教員が認めるとき、その内容の評価に応じ1回につき1～3点加点とする。また、学生の自発性および授業の双方向性推進の措置として、全授業回数中、教員の質問に対し学生が自発的応答を1回もしなかったとき、5点減点とする。
5. 小論文（宿題）
 

未提出の小論文1件につき2点減点とする。また、教員が小論文を優良と評価したとき、小論文1件につき内容の優良さに応じ1～3点加点とする。
6. 小テスト
 

授業の理解度を計る小テストについて教員が優良と認めた場合は、小テスト1件につき評価により1～3点加点とする。
7. 期末試験としてのレポート提出を課す場合
 

レポートは原則として試験期間開始前に提出させるものとし、教員が指定する締め切り期限を過ぎた場合は期限後1日（土曜、日曜、祝日を含む。）あたり2点減点とし、また、提出がない場合のレポート評価は零点とする。教員が定めた場合の最低字数に不足する場合も適宜減点するものとする。字数の上限を定めた場合で、それを越えた場合も同様とする。

加減点の措置は、成績の総合評価が100点を越えた場合は100点として評価するものとする。





授業科目名	現代家族事情特論	授業形態・単位数	講義・2
		開講年次	1, 2
担当教員	教授	開講期	後期
	うめみや れいか	授業回数	15
	梅宮 れいか	期末試験の有無	無
	本務先： 職名：		
開講キャンパス	宮代	授業時間以外の必要な学修時間	60 時間
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
修了		選択	
オフィスアワー・メールアドレス等	初回時に説明します。		

<b>【授業の概要】</b> 今日の家族が抱える問題を、家族が有している教育機能から読み解きます。この授業は、自らが CiNii を使って論文を検索する作業を通し、多くの論文に触れ、知識を学んでゆくアクティブ・ラーニングにより運営されます。	<b>【授業の概要との対応項目】</b>	
	◎	A 知識
		B 技術・技能
		C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	○	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	○	J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力	
<b>【授業の到達目標】</b>	<b>【授業の概要・到達目標との対応項目】</b> (受講して得られる力)	
個人の発達における家族の機能を理解し、問題を見つける力の醸成	目標	A
ダイバーシティの視点から、家族の役割を理解する力の醸成	目標	J
分担された課題をまとめ、理解すると共に、より深く考察する力の醸成	目標	I
	目標	
	目標	

<b>【授業計画】</b>			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	この講座で学ぶ内容の把握 講座運営についての説明 CiNii の使い方の説明 知識量の確認	ディスカッション	復習：問題点の整理 各自のパソコンを持参のこと
2	「機能」主義的考え方について	講義	予習：配布資料の通読 復習：専門用語の整理と理解
3	家族制度の変遷と教育機能	関連箇所 教科書第一部第 2 章 レビュー発表とディスカッション	予習：レジメの作成 復習：授業内容の整理

4	家族と社会化	各自、関連文献を CiNii でリサーチし、そのレビュー発表とディスカッション	予習：レジメの作成 復習：授業内容の整理
5	ジェンダー	各自、関連文献を CiNii でリサーチし、そのレビュー発表とディスカッション	予習：レジメの作成 復習：授業内容の整理
6	LGBT	各自、関連文献を CiNii でリサーチし、そのレビュー発表とディスカッション	予習：レジメの作成 復習：授業内容の整理
7	婚姻制度と同性婚	関連箇所 教科書第二部第 1,2,3 章 レビュー発表とディスカッション	予習：レジメの作成 復習：授業内容の整理
8	LGBT と差別	各自、関連文献を CiNii でリサーチし、そのレビュー発表とディスカッション	予習：レジメの作成 復習：授業内容の整理
9	時間内レポートの作成 テーマ：LGBT と家族制度	レポートの作成 作成に個別の質問は受け付けます	予習：レポート下書きの作成 復習：これまでの知識の整理
10	親子関係	関連箇所 教科書第二部第 4 章 レビュー発表とディスカッション	予習：レジメの作成 復習：授業内容の整理
11	家族と準拠集団	各自、関連文献を CiNii でリサーチし、そのレビュー発表とディスカッション	予習：レジメの作成 復習：授業内容の整理
12	家族と学校	各自、関連文献を CiNii でリサーチし、そのレビュー発表とディスカッション	予習：レジメの作成 復習：授業内容の整理
13	家族と貧困	各自、関連文献を CiNii でリサーチし、そのレビュー発表とディスカッション	予習：レジメの作成 復習：授業内容の整理
14	総ディスカッション	ディスカッション	予習：テーマに関する情報の整理 復習：知識の整理
15	最終レポートの作成	課題は 14 回目に発表します 個別の質問を含めた、知識の確認を含む	予習：課題に関する情報の収集
期末 試験	行わない		

**【最終レポートの講評】**

希望者には、最終レポートの講評をオフィスアワー等を通じて行います。

**【到達度の評価（評価方法・基準）】**

時間内レポート 10 点満点、各回のレジメ 5 点満点（計 50 点満点）、総ディスカッションの発言内容 20 点満点、最終レポート 20 点満点とし、総計 100 点満点で評価します。なお、評価に関する共通理解に則る減点を総合点より行う場合があります。

**【教科書】**

書名：家族心理学—社会変動・発達・ジェンダーの視点  
著者名：柏木恵子  
発行所：東京大学出版会  
価格： 3,200 円（税別）

**【参考書】**

書名：ジェンダーとセックス 精神療法とカウンセリングの現場から  
著者名：及川 卓  
発行所：弘文堂  
価格： 4,600 円（税別）

**【その他補足事項】**

発表は輪番ですが、毎回全員にレジメを提出してもらいます。レジメ作成の時には、CiNii での論文検索は必ず行ってください。先行研究のレビューがしっかりされているレジメ、発言を高く評価します。  
なお、参考書は、福島駅前図書館情報センター分室に所蔵されています。

授業科目名	現代こども事情特論	授業形態・単位数	講義・2
		開講年次	1
担当教員	非常勤講師	開講期	前期（隔週）
	うけがわ しげひろ	授業回数	15
	請川 滋大	期末試験の有無	無
	本務先： 日本女子大学 准教授		
開講キャンパス	宮代	授業時間以外の必要な学修時間	60 時間
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
修了		選択	
オフィスアワー・メールアドレス等	初回時に説明します。		

<b>【授業の概要】</b> はじめに発達心理学および隣接領域の理論や知識について、この授業の関心に即して講義をします。その後、研究論文や文献などの資料を配布し、授業参加者にレポーターになってもらいながら、参加者全員でそれらの資料についてディスカッションを行います。資料の内容については担当者が紹介・コメントをしていきますが、講義に参加しているメンバー全体で授業を進めていくことになります。 現代におけるこどもの育つ場として、幼稚園、保育所、認定こども園、小学校、学童保育、放課後の子どもたちの居場所や遊び場などを取り上げます。それらをめぐる状況など、現代のこどもを取り巻く諸問題について、発達心理学および隣接領域の理論や知識を基盤としながら、論文などに即して討論していきます。	<b>【授業の概要との対応項目】</b>		
	<input type="radio"/>	A	知識
		B	技術・技能
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力
	<input type="radio"/>	D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J	多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K	課題対処力
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
<b>【授業の到達目標】</b>	<b>【授業の概要・到達目標との対応項目】</b> (受講して得られる力)		
心理学や教育学、社会学の視点や知識を基盤として問題分析ができる	目標	A C K	
論文を読解する力を身につけ、それらの要点を押さえた上で表現する力を備えている	目標	C D K	
論文や他者の意見に対して自らの考えを持ち、それらを自分の言葉で表現することができる	目標	C D I	

<b>【授業計画】</b>			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション こども研究の様々な手法について	授業計画、配布された論文	シラバスに目を通しておく
2	こども研究とフィールドワーク	持参したレジюмеを元にした報告、 前回配布された論文	配布された論文を読む レジюмеの作成
3	発達を捉える視点としての社会文化的アプローチ		

4	社会文化的アプローチとエスノグラフィ	持参したレジュメを元にした報告、 前回配布された論文	配布された論文を読む レジュメの作成		
5	幼児期・児童期の発達と教育 (1) 実践としての学びの理解				
6	幼児期・児童期の発達と教育 (2) 発達の媒介者としてのおとな				
7	保育・教育実践と心理学との接点 (1) 保育・教育実践の場におけるこどもの育ち				
8	保育・教育実践と心理学との接点 (2) 集団の臨床としての保育・教育				
9	保育・教育の多様なニーズ (1) ー外国籍のこどもがいる保育・教育施設ー				
10	保育・教育の多様なニーズ (2) ー文化の実践としての保育・教育実践ー				
11	発達的に気になる子の保育・教育 (1) ー気になる子とは何かー				
12	発達的に気になる子の保育・教育 (2) ー個の臨床と集団の臨床ー				
13	保育・教育実践の場における個と集団 (1) ー保育・教育で用いられる様々な集団ー				
14	保育・教育実践の場における個と集団 (2) ーいかにして集団を形成するかー				
15	現代のこどもを取り巻く様々な課題 ー自らの研究意識と共にー				
期末 試験					

【期末試験の講評】

【到達度の評価（評価方法・基準）】

- (1) 筆記試験 記述方式のテストを学期末に実施 (50 点)
- (2) レジュメとプレゼンテーション 授業内で報告する際のレジュメ作成とそれに基づいた論文の報告・プレゼンテーション (50 点)
- (3) その他 授業内での発言等、授業に対する貢献度を評価の参考とする

【参考書】

書 名：フィールドワークの技法と実際〈2〉分析・解釈編

著者名：箕浦康子

発行所：ミネルヴァ書房

価格：2,592 円 (税別)

書 名：子どもエスノグラフィ入門—技法の基礎から活用まで

著者名：柴山真琴

発行所：新曜社

価格：2,052 円 (税別)

【その他補足事項】

教科書は指定せず、初回到授業内で読む論文を配布します。自らの学びのために参考書を 2 冊指定したので、興味のある人はぜひ読んで下さい。

授業科目名	現代保育者事情特論	授業形態・単位数	講義・2
		開講年次	1
担当教員	非常勤講師	開講期	後期（集中講義）
	たかはし たかし	授業回数	15
	高橋 貴志	期末試験の有無	無
	本務先： 白百合女子大学人間総合学部 教授		
開講キャンパス	福島駅前	授業時間以外の必要な学修時間	60 時間
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
修了		選択	
オフィスアワー・メールアドレス等	授業終了後に教室で質問等に対応します。		

<b>【授業の概要】</b> 幼稚園、保育所に代表される集団保育施設が現在直面している課題を洗い出し、その課題がどのような背景のもとに生まれているのか、また、課題解決の処方箋として考えうることは何か、について議論を交えながら考察します。とりあげる課題として、「幼保一体化」、「子育て支援と保育者」「幼保小連携」「保育者の専門性」、「保育者養成」等を考えていますが、授業中の議論を通して、新たな課題設定も行う予定です。	<b>【授業の概要との対応項目】</b>		
	<input type="radio"/>	A	知識
		B	技術・技能
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力
		D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J	多様性への理解力、応用力
		K	課題対処力
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
<b>【授業の到達目標】</b> 保育現場が抱える諸問題について議論を深めながら、本授業が最終的に目的とする点は以下の4点です。	<b>【授業の概要・到達目標との対応項目】</b> (受講して得られる力)		
1. 「保育」とはどのような営みなのか、その本質について改めて共通理解する。	目標	A	
2. 「保育者」とはどのような専門職であるか、理解する。	目標	A	
3. 保育者として「保育ニーズ」をどのように捉えるべきか、説明できる。	目標	C I	
4. これからの「集団保育施設」「保育者」のあり方について、展望できる。	目標	C I	

<b>【授業計画】</b>			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	授業概要の説明 レポート発表分担決め	レジュメ使用 DVD視聴	
2	「保育」概念に関する確認	レジュメ使用	授業「保育原理」の復習
3	「保育者の行う子育て支援」に関する確認		授業「家庭支援論」「保育相談支援」等の復習

4	幼保一体化をどのように考えるか①	レジュメ使用 DVD 視聴	「認定こども園」の議論に関する情報収集
5	幼保一体化をどのように考えるか②	レジュメ使用	
6	子ども・子育て支援新制度をどのように考えるか①		子ども・子育て支援新制度に関する情報の収集
7	子ども・子育て支援新制度をどのように考えるか②		
8	保育者の専門性①		
9	保育者の専門性②		授業「保育者論」の復習
10	子育て支援と保育者①	レジュメ使用 DVD 視聴	「保育ニーズ」の具体例について情報収集
11	子育て支援と保育者②	レジュメ使用	
12	保育者養成①（養成校と現場の関係）		実習」での学びを復習
13	保育者養成②（養成校卒業後の保育者の成長）		
14	保育者養成③（養成カリキュラムの検討）		
15	総まとめ	授業で使用した全てのレジュメ	
期末試験	行わない。		

【最終レポートの講評】

最終レポートの評価後、希望者には、講評をオフィスアワー等を通じて行います。

【到達度の評価（評価方法・基準）】

以下の配点により 100 点満点で評価します。（1）まとめのレポート 70% ⇒本授業の目的としてあげた 4 項目に関して、授業中に学んだ事柄と関連付けて考察できているか、を観点とします。（2）授業毎のミニレポート 30% ⇒毎回の授業内容について理解していたか、自分なりの考えをまとめられているか、を観点とします。

【教科書】 使用しない

【参考書】 使用しない

【その他補足事項】

保育・幼児教育の場が抱える現代的な課題について考察する際の「視点」を、受講者のみなさんそれぞれが受講前に持っていてほしいと思います。「視点」となりうるのは、学問領域（心理学の視点、教育学の視点、児童福祉の視点・・・など）、保育・幼児教育の場にいる人（保育者、保護者、こども）、保育・幼児教育の場の環境（物的環境・人的環境）、法制度、歴史等がありますが、ご自身の研究テーマ等も積極的に「視点」としていただければと思います。

授業科目名	現代地域福祉事情特論	授業形態・単位数	講義・2
		開講年次	1
担当教員	兼任教授	開講期	後期
	くさか てるみ	授業回数	15
	日下 輝美	期末試験の有無	無
	本務先： 職名：		
開講キャンパス	駅前キャンパス（部分 Skype 使用）	授業時間以外の必要な学修時間	60 時間
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
修了		選択	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

<b>【授業の概要】</b> 現代社会の福祉問題の特徴は、急速な超高齢・少子社会の進行、ひとり親家庭における貧困問題や虐待・暴力等、新たな社会的排除や孤立・孤独といった問題群の登場が挙げられます。近年の社会福祉関連法の改正等を踏まえつつ、学生の問題提起のもとに議論を深めます。	<b>【授業の概要との対応項目】</b>		
		A	知識
		B	技術・技能
		C	論理的思考力
		D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
		○	J 多様性への理解力、応用力
		○	K 課題対処力
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
<b>【授業の到達目標】</b>	<b>【授業の概要・到達目標との対応項目】</b> (受講して得られる力)		
地域福祉の歴史的展開過程、基本的な考え方（人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂等を含む）を理解し、自分の考え方や新たな方向性を説明できる。	目標	J K	
新聞記事や文献、論文等を参考に、最新の地域福祉の事例について説明することができる。	目標	J	
高齢・少子社会における共生＝地域包括ケアシステムのあり方、方法をよく理解したうえで、今後のあり方について説明できる。	目標	K	

<b>【授業計画】</b>			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 地域社会と地域福祉の動向	配布資料	予習レポート作成 社会福祉に関する新聞記事や雑誌を読み、トピックスのレポートを作成してくる。
2	住民自治と地域福祉の展開事例		
3	地域共同体からコミュニティ福祉の展開		



4	コミュニティ福祉の課題	配布資料	予習レポート作成 社会福祉に関する新聞記事や雑誌を読み、トピックスのレポートを作成して行く。		
5	地域政策と地域福祉政策の動向				
6	地域政策としての社会福祉行政計画				
7	地域福祉計画策定の視点と枠組み				
8	共助型福祉のまちづくり事例研究				
9	大規模災害における地域福祉の現状と課題（1）				
10	大規模災害における地域福祉の現状と課題（1）				
11	限界集落における地域福祉の現状と課題				
12	NPO、ボランティア活動の現状と課題（1）				
13	NPO、ボランティア活動の現状と課題（1）				
14	コミュニティビジネスなど、新たな地域福祉の取り組みと課題				
15	学修成果の発表と講評				
期末試験	行わない。				

【最終レポートの講評】

最終レポートの評価後、希望者には、講評をオフィスアワー等を通じて行います。

【到達度の評価（評価方法・基準）】

欠席1回につき3点減点、遅刻1回につき1点減点、3回の遅刻で1回の欠席とみなします。

・予習レポートの作成・発表

⇒ 毎週発行される『福祉新聞』を読み、保健・医療・福祉の各領域にわたって関心と問題意識をもち、自ら立てたテーマにそって参考図書や資料を基にレポート作成、発表します。

【教科書】

書名：社会福祉小六法

著書名：ミネルヴァ書房編集部（編）

発行所：ミネルヴァ書房

価格：1,600円＋税

【参考書】

書名：地域福祉の理論と実際

著書名：都築光一 編著

発行所：建帛社

価格：2,400円＋税

【その他補足事項】

授業科目名	幼児発達心理学特論	授業形態・単位数	講義・2
		開講年次	1
担当教員	非常勤講師	開講期	前期（隔週）
	ひらの みきお	授業回数	15
	平野 幹雄	期末試験の有無	無
	本務先： 東北文化学園大学医療福祉学部 教授		
開講キャンパス	宮代	授業時間以外の必要な学修時間	60 時間
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
修了		必修	
オフィスアワー・メールアドレス等	初回時に説明します。		

<b>【授業の概要】</b> 本講義では、出生前の胎児期から小学校入学に至るまでの乳幼児期におけるこどもの心理発達について概説する。同時に、保育所や幼稚園などの臨床の場における発達アセスメントに必要な基本的事項の修得を目指す。	<b>【授業の概要との対応項目】</b>		
	<input type="radio"/>	A	知識
		B	技術・技能
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力
		D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
	<input type="radio"/>	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力
		K	課題対処力
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
<b>【授業の到達目標】</b>	<b>【授業の概要・到達目標との対応項目】</b> (受講して得られる力)		
こどもの心理発達、とりわけ胎児期から乳幼児期までの発達の基礎を理解できる。	目標	A C J	
保育所や幼稚園などの現場においてこどもの発達の視点をもってアセスメントできるようになるための基礎的な技量を身につける。	目標	A C H J	

<b>【授業計画】</b>			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	様々な発達観	論文の抄読、討論	詳細は講義中に指示
2	胎児期の発達		
3	乳児期の発達		

4	愛着関係の発達	論文の抄読、討論	詳細は講義中に指示		
5	愛着障害と発達性トラウマ				
6	社会性の発達①(二項関係から三項関係へ)				
7	社会性の発達②(心の理論の発達)				
8	社会性の発達③(ミラニューロン、直感的心理 化と命題的心理化)				
9	ことばと認知の発達について				
10	ピアジェの認知発達理論について				
11	ヴィゴツキーの理論について				
12	気になる子の発達のアセスメントのあり方① (個の発達特性について)				
13	気になる子の発達アセスメントについて② (環境の整備について)				
14	気になる子の発達アセスメント③ (保護者支援のあり方について)				
15	気になる子の発達アセスメント④ (支援者支援について)				
期末 試験	行わない。				
<b>【最終レポートの講評】</b>					
<b>【到達度の評価(評価方法・基準)】</b> レポート 60%、講義への積極的参加 40%					
<b>【教科書】</b>					
<b>【参考書】</b> 書名：発達心理学入門 I 乳児・幼児・児童 著者名：無藤隆・高橋恵子・田島信元 発行所：東京大学出版会 価格： 2,400 円(税別)					
<b>【その他補足事項】</b>					

授業科目名	臨床心理学特論	授業形態・単位数	講義・2
		開講年次	1, 2
担当教員	兼任准教授	開講期	後期
	わたなべ あつこ	授業回数	15
	渡部 敦子	期末試験の有無	無
	本務先： 職名：		
開講キャンパス	宮代	授業時間以外の必要な学修時間	60 時間
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
修了		必修	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

<b>【授業の概要】</b> この授業では、臨床心理学がどのような学問であるのかについて学びます。その定義と歴史的経緯から始まり、どのような理論と技法が存在するのか、教育、保育、病院等の領域ではどのような実践と研究が行われているのかについて概説します。	<b>【授業の概要との対応項目】</b>		
	○	A	知識
		B	技術・技能
		C	論理的思考力
		D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	○	J	多様性への理解力、応用力
		K	課題対処力
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
<b>【授業の到達目標】</b>	<b>【授業の概要・到達目標との対応項目】</b> (受講して得られる力)		
臨床心理学がどのような学問であるのかを理解する。	目標	A J	
対人援助の理論と技法の基本について説明できる。	目標	A J	
	目標		
	目標		
	目標		

<b>【授業計画】</b>			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 臨床心理学の定義	授業計画 配布資料	
2	対人援助とは何か 話の聞き方	配布資料 グループワーク	事前配布資料を読んでおく
3	さまざまな心理療法(1) 精神分析、行動療法など	配布資料	

4	さまざまな心理療法 (2) 来談者中心療法など	配布資料	事前配布資料を読んでおく
5	さまざまな心理療法 (3) 家族療法など		
6	人を理解する (1) パーソナリティの理論		
7	人を理解する (2) 心理アセスメントの考え方		
8	人を理解する (3) 子どもの発達		
9	スクールカウンセリング (1) 概要	配布資料 事例検討	事前配布資料を読んでおく
10	スクールカウンセリング (2) 実践における特色		
11	心の病について		
12	子どもにまつわる諸問題 (1) 不登校	配布資料 事例検討	事前配布資料を読んでおく レポート作成
13	子どもにまつわる諸問題 (2) いじめ、非行など		
14	家族支援について		
15	まとめ		まとめレポート作成
期末 試験	行わない。		
<p><b>【最終レポートの講評】</b> 最終レポートの評価後、希望者には、講評をオフィスアワー等を通じて行います。</p>			
<p><b>【到達度の評価（評価方法・基準）</b> 授業への参加態度（積極性、発表、授業内容の理解度）50% 随時行う小レポート 20% まとめレポート 30%</p>			
<p><b>【教科書】</b> もちいない</p>			
<p><b>【参考書】</b> 書名：よくわかる臨床心理学（改訂新版） 著者名：下山晴彦 発行所：ミネルヴァ書房 価格：3,000 円（税別）</p>			
<p><b>【その他補足事項】</b></p>			

授業科目名	発達臨床学特論	授業形態・単位数	講義・2
		開講年次	1
担当教員	教授	開講期	前期
	うめみや れいか	授業回数	15
	梅宮 れいか	期末試験の有無	無
	本務先： 職名：		
開講キャンパス	宮代（一部 Skype 使用）	授業時間以外の必要な学修時間	60 時間
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
修了		必修	
オフィスアワー・メールアドレス等	初回時に説明します。		

<b>【授業の概要】</b> 発達臨床の基礎知識を概観し、健常発達比較しながら問題点を把握する観点を学修します。幼児期の発達を中心としますが、生涯にわたる発達の一部として理解できるようなセンスを磨くことも目的としています。また、ダイバーシティを重んじる社会を作るために自分ができることを考える授業でもあります。	<b>【授業の概要との対応項目】</b>		
	◎	A	知識
		B	技術・技能
		C	論理的思考力
		D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	○	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	○	J	多様性への理解力、応用力
		K	課題対処力
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
<b>【授業の到達目標】</b>	<b>【授業の概要・到達目標との対応項目】</b> (受講して得られる力)		
発達段階における問題点を発達臨床的な視点から理解できる理論的背景	目標	A	
健常発達と比較して問題点が把握できる基礎知識	目標	A	
分担された課題をまとめ、理解すると共に、より深く考察する力	目標	I	
ダイバーシティを理解する知識	目標	J	
	目標		

<b>【授業計画】</b>			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	この講座で学ぶ内容の把握 講座運営についての説明 Skype の設定		各自のパソコンを持参のこと
2	基礎知識確認	DVD「発達障害理解の基礎」30分 ディスカッション	予習：DSM- 5の指定箇所の通読 復習：専門用語の整理と理解
3	性同一性障害と自我の発達	講義、DVD「NHK、ティーンズハート」15分、 文献コピー、ディスカッション	予習：配布文献の通読 復習：知識の整理

4	性同一性障害と教育に関する発表とディスカッション	スライドを使った発表 ディスカッション	予習：発表スライドの作成 復習：知識の整理
5	性同一性障害と教育に関する時間内レポートの作成	レポートの作成 作成に途中の個別の質問は受け付けます	予習：課題に関する情報の収集 復習：ノートの整理
6	教科書第 1 章、第 2 章の理解（共有）	ジグソー法によるアクティブラーニング	予習：レジメの作成 復習：教科書の理解と疑問点の整理
7	教科書第 1 章、第 2 章の理解（発展） 【Skype 使用 遠隔授業】	ジグソー法によるアクティブラーニング	予習：担当部分発表の準備 復習：知識の整理
8	教科書第 3 章、第 4 章の理解（共有）	ジグソー法によるアクティブラーニング	予習：レジメの作成 復習：教科書の理解と疑問点の整理
9	教科書第 3 章、第 4 章の理解（発展） 【Skype 使用 遠隔授業】	ジグソー法によるアクティブラーニング	予習：担当部分発表の準備 復習：知識の整理
10	教科書第 5 章、第 6 章の理解（共有）	ジグソー法によるアクティブラーニング	予習：レジメの作成 復習：教科書の理解と疑問点の整理
11	教科書第 5 章、第 6 章の理解（発展） 【Skype 使用 遠隔授業】	ジグソー法によるアクティブラーニング	予習：担当部分発表の準備 復習：知識の整理
12	教科書第 7 章、第 8 章の理解（共有）	ジグソー法によるアクティブラーニング	予習：レジメの作成 復習：教科書の理解と疑問点の整理
13	教科書第 7 章、第 8 章の理解（発展） 【Skype 使用 遠隔授業】	ジグソー法によるアクティブラーニング	予習：担当部分発表の準備 復習：知識の整理
14	総ディスカッション	ディスカッション	予習：テーマに関する情報の整理 復習：知識の整理
15	最終レポートの作成	課題は 14 回目に発表する 個別の質問を含めた、知識の確認を含む	予習：課題に関する情報の収集
期末 試験	行わない		

【最終レポートの講評】

希望者には、最終レポート講評をオフィスアワー等を通じて行います。

【到達度の評価（評価方法・基準）】

時間内レポート 15 点満点、各回のレジメ 10 点満点（計 40 点満点）、総ディスカッションの発言内容 15 点満点、最終レポート 30 点満点とし、総計 100 点満点で評価します。なお、評価に関する共通理解に則る減点を総合点より行う場合があります。

【教科書】

書名：こどもの理解と支援のための発達アセスメント

著者名：本郷一夫（編）

発行所：有斐閣選書

価格： 1,800 円（税別）

【参考書】

書名：現代のエスプリ 481 「嘘の臨床・嘘の現場」 第 2 章「性同一性障害と嘘」

著者名：梅宮れいか

発行所：

価格： 1,380 円（税別）

【その他補足事項】

ジグソー法によるアクティブラーニングを通して教科書およびそこに記載されている関連知識を理解してゆきます。また、疑問点等を討論で解決して行きます。

受講には、インターネットに接続したパソコンとマイク付きヘッドホンが必要です。初回にはパソコンを必ず持参してください。詳しく説明し、一緒にセットアップします。

なお、参考書は、福島駅前図書館情報センター分室に所蔵されています。

授業科目名	教育心理学特論 (臨床心理学専攻共通科目)	授業形態・単位数	講義・2
		開講年次	1, 2
担当教員	教授	開講期	前期
	うめみや れいか 梅宮 れいか	授業回数	15
		期末試験の有無	無
	本務先： 職名：		
開講キャンパス	福島駅前（宮代 テレビ授業システム）	授業時間以外の必要な学修時間	60 時間
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
修了		選択	
オフィスアワー・メールアドレス等	初回時に説明します。		

<b>【授業の概要】</b> この授業は、教育場面で現れる諸問題に対応するための基礎知識を、人の心理的側面における生涯発達から理解するものです。効果的な教育手法の考察は対象としていませんが、教育環境における人の発達に関して、教育学的なアプローチを含みます。 教科書を用いますが、毎回全員にレジメを提出してもらいます。レジメ発表の当番は、CiNii で関連論文を検索し、その内容を踏まえた発表をしてください。発表を基に知識を広げる授業とします。	<b>【授業の概要との対応項目】</b>		
	◎	A	知識
		B	技術・技能
	○	C	論理的思考力
		D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	○	J	多様性への理解力、応用力
	K	課題対処力	
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
<b>【授業の到達目標】</b>	<b>【授業の概要・到達目標との対応項目】</b> (受講して得られる力)		
発達臨床から人と教育とのかかわりを理解する	目標	A	
教育場面での諸問題を心理学的に理解する基礎を養う	目標	A	
人の生涯発達と、直面している問題の関係を心理学的に把握する基礎を養う	目標	C	
多様な発達の諸相について理解する基礎を養う	目標	J	
	目標		

<b>【授業計画】</b>			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	この講座で学ぶ内容の把握 講座運営についての説明 CiNii のつかいかた	福島駅前図書館の情報検索端末を実際に操作する	初回のみ、宮代受講生も駅前に集合のこと
2	教育心理学と発達臨床	講義	予習：教科書の通読 復習：教科書の理解と疑問点の整理
3	生涯発達	関連箇所 教科書第 1 章 レビュー発表とディスカッション	予習：レジメの作成 復習：教科書の理解と疑問点の整理



4	乳幼児期の発達	関連箇所 教科書第 2 章 レビュー発表とディスカッション	予習：レジメの作成 復習：教科書の理解と疑問点の整理
5	発達障害と臨床的援助	関連箇所 教科書第 3 章 レビュー発表とディスカッション	予習：レジメの作成 復習：教科書の理解と疑問点の整理
6	児童期・思春期の発達と教育環境	関連箇所 教科書第 4、5 章 レビュー発表とディスカッション	予習：レジメの作成 復習：教科書の理解と疑問点の整理
7	思春期の性の発達と LGBT	講義 DVD「僕のバラ色の人生」 30 分	予習：用語の理解 復習：ノートの整理
8	スクールカウンセラーの機能と援助サービス	関連箇所 教科書第 6 章 レビュー発表とディスカッション	予習：レジメの作成 復習：教科書の理解と疑問点の整理
9	青年期の発達	関連箇所 教科書第 7 章 レビュー発表とディスカッション	予習：レジメの作成 復習：教科書の理解と疑問点の整理
10	青年期の心理障害と精神病理	関連箇所 教科書第 8 章 レビュー発表とディスカッション	予習：レジメの作成 復習：教科書の理解と疑問点の整理
11	大学生の発達と学生相談	関連箇所 教科書第 9 章 レビュー発表とディスカッション	予習：レジメの作成 復習：教科書の理解と疑問点の整理
12	家族臨床と教育	関連箇所 教科書第 11 章 レビュー発表とディスカッション	予習：レジメの作成 復習：教科書の理解と疑問点の整理
13	老年期の発達	関連箇所 教科書第 12 章 レビュー発表とディスカッション	予習：レジメの作成 復習：教科書の理解と疑問点の整理
14	総ディスカッション	ディスカッション	予習：テーマに関する情報の整理 復習：知識の整理
15	最終レポートの作成	課題は 14 回目に発表する 個別の質問を含めた、知識の確認 を含む	予習：課題に関する情報の収集
期末 試験	行わない。		

**【最終レポートの講評】**

希望者には、最終レポートの講評をオフィスアワー等を通じて行います。

**【到達度の評価（評価方法・基準）】**

各回のレジメ 5 点満点（計 50 点満点）、総ディスカッションの発言内容 2.5 点満点、最終レポート 2.5 点満点とし、総計 100 点満点で評価します。なお、評価に関する共通理解に則る減点を総合点より行う場合があります。

**【教科書】**

書名：教育心理学〈2〉発達と臨床援助の心理学

著者名：山下晴彦

発行所：東京大学出版会

価格：2,900 円（税別）

**【参考書】**

書名：教育心理学キーワード

著者名：森敏昭・秋田喜代美（編）

発行所：有斐閣双書

価格：1,900 円（税別）

**【その他補足事項】**

発表は輪番で行いますが、全員、毎回レジメの提出を求めます。教科書の理解と共に、CiNii での論文検索は必ず行ってください。先行研究のレビューがしっかりされているレジメ、発言を高く評価します。

なお、CiNii の検索の仕方は、初回に説明しますので、宮代で受講を予定している学生も駅前に集合してください。

授業科目名	家族心理学特論 (臨床心理学専攻共通科目)	授業形態・単位数	講義・2
		開講年次	1, 2
担当教員	兼任准教授	開講期	前期 (夏期集中講義)
	わたなべ あつこ	授業回数	15
	渡部 敦子	期末試験の有無	無
	本務先： 職名：		
開講キャンパス	福島駅前	授業時間以外の必要な学修時間	60 時間
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
修了		選択	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

【授業の概要】  本授業では、現代家族の様相について様々な側面から解説していく。さらに家族を理解し支援する理論と技法について実践を交えながら学んでいく。	【授業の概要との対応項目】		
	<input type="radio"/>	A	知識
	<input type="radio"/>	B	技術・技能
		C	論理的思考力
		D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力
		K	課題対処力
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
家族とは何かについて説明できる。	目標	A	
家族システム理論について理解できる。	目標	A J	
家族を支援する理論の基礎を理解する。	目標	A B J	
	目標		
	目標		

【授業計画】			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	家族とは何か 家族心理学とはどのような学問か	配布資料 ディスカッション	配布資料を読む
2	家族の発達		
3	夫婦関係、親子関係、きょうだい関係		

4	父性・母性とは虐待	配布資料 ディスカッション	配布資料を読む	
5	家族をとりまくさまざまな問題		配布資料を読む レポート作成	
6	家族アセスメントの方法		配布資料を読む	
7	家族システム論 (1) システム論とはどのような考え方か			
8	家族システム論 (2) 事例をもとに考えてみる		配布資料を読む レポート作成	
9	多世代派家族療法		配布資料を読む	
10	構造派家族療法			
11	コミュニケーション派家族療法 (1) コミュニケーションについて考える			
12	コミュニケーション派家族療法 (2) 実際の進め方			
13	短期療法 解決志向アプローチ			
14	ナラティブセラピー			
15	まとめ			配布資料を読む まとめレポート作成
期末試験	行わない。			
<b>【最終レポートの講評】</b>				
<b>【到達度の評価（評価方法・基準）】</b> 授業への参加態度（ディスカッションへの積極性、授業内容の理解度）40% 小レポート（随時行う）20% まとめレポート 40%				
<b>【教科書】</b> 配布資料				
<b>【参考書】</b> 書名：家族療法の秘訣 著者名：東豊 発行所：日本評論社 価格：2,400 円 (税別)				
<b>【その他補足事項】</b>				

授業科目名	発達臨床心理学特論	授業形態・単位数	講義・2
		開講年次	1, 2
担当教員	教授	開講期	後期
	にしむら まなぶ	授業回数	15
	西村 學	期末試験の有無	無
	本務先：	職名：	
開講キャンパス	宮代	授業時間以外の必要な学修時間	60 時間
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
修了		選択	
オフィスアワー・メールアドレス等	・オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

【授業の概要】  発達臨床心理学の全ての領域にわたって、重要なスキルである「カウンセリング」の基本的な諸問題について講じます。	【授業の概要との対応項目】	
	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技術・技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
	<input type="radio"/>	D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
(1) カウンセリングの理念を理解する。	目標	A
(2) カウンセリングのスキルを理解する。	目標	A B
(3) 学術論文における「論理的展開」を身につける。	目標	C
(4) 学術論文の「文章表現法」を身につける。	目標	D
	目標	

【授業計画】			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標(授業内容) (2) 評価方法・授業の進め方の留意点		
2	1. カウンセリングとは ○「カウンセリング」と相談	学生に、予め割り当てられた部分(テキスト)についての考察内容を報告させます。	テキストの該当部分を事前に読む。事後に、授業内容をふまえてもう一度読む
3	2. カウンセリングと物語① ○語ることの意味		

4	3. カウンセリングと物語② ○自分探しの時代とは	学生に、予め割り当てられた部分(テキスト)についての考察内容を報告させます。	テキストの該当部分を事前に読む。事後に、授業内容をふまえてもう一度読む		
5	4. カウンセリングと物語③ ○カウンセリングの意味				
6	5. 今日の社会とカウンセリング① ○成果主義のもたらす問題				
7	6 今日の社会とカウンセリング② ○感情ワーク・感情労働				
8	7. 今日の社会とカウンセリング③ ○生涯学習社会と自己実現				
9	8. カウンセリングの基本問題① ○カウンセリングの目的				
10	9. カウンセリングの基本問題② ○症状とその意味				
11	10. カウンセリングの人間観と基本的態度 ○三つの基本的態度				
12	11. カウンセリングの展開プロセス ○初回面接から集結まで				
13	12. クライアント中心療法 ○クライアント中心療法の基本的な視点				
14	13. 認知療法 ○認知の歪みの種類について				
15	14. 交流分析 ○交流分析のキーワード				
期末試験	行わない。				
<b>【最終レポートの講評】</b>					
<b>【到達度の評価（評価方法・基準）】</b> (1) 期末にレポート提出（40点） (2) 各自の割り当て部分の報告内容（60点）					
<b>【教科書】</b> 書名：カウンセリングを語る 著者名：高垣忠一郎 発行所：かもがわ出版 価格：2,000 円(税別)					
<b>【参考書】</b>					
<b>【その他補足事項】</b>					

授業科目名	心理カウンセリング演習	授業形態・単位数	講義・2
		開講年次	1, 2
担当教員	兼担教授	開講期	後期（集中）
	すぎやま まさひこ	授業回数	15
	杉山 雅彦	期末試験の有無	無
	本務先： 職名：		
開講キャンパス	福島駅前	授業時間以外の必要な学修時間	60 時間
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
修了		選択	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します		

<b>【授業の概要】</b> カウンセリングに関する理解を深めるため、理論や方法そして対象理解等に関する知識を深めると同時に、討論することにより問題を広く把握する。また模擬カウンセリングを行いカウンセリングの方法に理解を深め、「サポートする」ということに関して検討していく。同時に、模擬カウンセリングを行うことによって自らの周囲に与える影響、機能に関して考察する機会を設け、相互作用に関する理解を深めていく。	<b>【授業の概要との対応項目】</b>	
	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技術・技能
		C 論理的思考力
		D 文章表現力
	<input type="radio"/>	E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J 多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K 課題対処力
<input type="radio"/>	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力	
<b>【授業の到達目標】</b>	<b>【授業の概要・到達目標との対応項目】</b> (受講して得られる力)	
人（あるいはクライアント）に対する、自分の影響、機能に関して把握する。	目標	B E L
カウンセリングの基本事項に関して（模擬的に）実戦可能になる。	目標	A B E K
カウンセリングを通して、人をサポートすることを理解する。	目標	J K L
	目標	
	目標	

<b>【授業計画】</b>			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	困っている人とは	クライアントとは、に関する討議	カウンセリング場面に訪れる人に関する学習
2	困っている人へのアプローチ	相互作用に関する討議	改善されることに関する学習
3	カウンセリングの必要性 カウンセリングという「形」が必要な理由	カウンセリングに関するイメージの討議	イメージのまとめ

4	話すことに関する抵抗 話すことを実施しての検討	話すことの抵抗に関するグループワーク	結果のまとめ
5	受容と共感 (1) なぜ受容が必要か 共感とは何をすることか	受容と共感の実施 その結果に関する討論	受容と共感の再検討
6	傾聴 聴くために必要な条件	聴くことの実施 その結果に関する討論	傾聴に関するまとめ
7	模擬カウンセリング (1) ことばの記録、逐語記録	記録の重要性とはの討論	記録のまとめ
8	模擬カウンセリング (2) カウンセリング場面を設定し記録をとる	模擬カウンセリング	記録の整理、分析
9	模擬カウンセリング (3) カウンセリング場面を設定し記録をとる		記録の整理、分析 まとめとレポートの作成
10	カウンセリングの方法 (1) カウンセリングにおける質問	質問に関する討議	方法に関する再検討
11	カウンセリングの方法 (2) カウンセリングにおける肯定	カウンセリングにおける肯定に関する討議	方法に関する再検討
12	変化へのカウンセリング 変化することの意味と抵抗	変化に関する抵抗についての討論	変化と動機づけのまとめ
13	変化に関する模擬カウンセリング (1)	模擬カウンセリング	記録の整理と分析
14	変化に関する模擬カウンセリング (2)		記録の整理と分析 レポート作成
15	初期カウンセリングと変化のためのカウンセリング	まとめの討議	カウンセリングのプロセスの再検討
期末試験	行わない。		

【最終レポートの講評】

希望者には、講評をオフィスアワー等を通じて行います。

【到達度の評価（評価方法・基準）

レポート 前半の模擬カウンセリングに関する記録と分析、および後半の変化に関する模擬カウンセリングの記録と分析をそれぞれレポートにして提出する。各 50 点満点で採点する

【教科書】 使用しない

【参考書】 使用しない

【その他補足事項】

授業科目名	心理学研究法特論 (臨床心理学専攻共通科目)	授業形態・単位数	講義・2
		開講年次	1, 2
担当教員	兼任教授	開講期	前期
	ないとう てつお	授業回数	15
	内藤 哲雄	期末試験の有無	無
		本務先： 職名：	
開講キャンパス	福島駅前 (宮代 テレビ授業システム)	授業時間以外の必要な学修時間	60 時間
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
修了		選択	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

【授業の概要】  日常生活において、あるいは現場実践での問題意識があっても、それを心理学分野での学問的に価値ある研究にまで高めるのは容易ではありません。授業では、まず教員が心理学の研究法に関する重要事項を3回にわたって概説します。ついでそれぞれの学生が関心をもつテーマでの学会誌論文のレジメを作成し、独自の課題の発見、科学的に価値ある研究にするための方法上の工夫、先行研究を援用しながらの結果の論考の仕方を学んでいきます。	【授業の概要との対応項目】		
	<input type="radio"/>	A	知識
	<input type="radio"/>	B	技術・技能
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力
	<input type="radio"/>	D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K	課題対処力
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
学会誌論文をレジメとしてまとめ、論文執筆に必要な論理構成力や文章力を学ぶ機会とし、プレゼンテーションの能力を高める。	目標	C D I K	
自身の研究課題を発見するための方法を知り、自身の研究を実施するに際して必要な理論や技法を知り、自発的・実践的に学ぶ姿勢と能力を高める。	目標	A B J K	
学術雑誌論文を通じて、心理学の研究に必要な理論や技術の基礎を学ぶ。	目標	A B C I K	

【授業計画】			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	先行研究に学ぶ(ガイダンス)	担当分野の決定、レジメの見本提示による書き方の解説	分担者はレジメの作成
2	心理学の研究とは(講義)	講義の中に質疑応答を交えて学生の自我関与を高める	分担者はレジメの作成、講義ノートの復習
3	科学的研究にしていく(講義)	講義の中に質疑応答を交えて学生の自我関与を高める	



4			
5			
6			
7			
8			
9	研究論文のレジюмеを院生が報告／全員による議論、教師による解説	担当者による発表と全員による議論、教員による解説	分担者はレジюмеの作成、その他の院生はレジюмеによる事前学習
10			
11			
12			
13			
14			
15	全体の総括	まとめの講義（レジюме改善のための注意）	ノートの復習
期末試験	行わない。		

【到達度の評価（評価方法・基準）】

分担発表の質（レジюме、発表の仕方）50%  
 授業への参加度（議論への積極的な参加）50%

【教科書】

【参考書】

【その他補足事項】

参加する学生は、自身の関心テーマに近い心理学の学会誌論文のレジюмеを作成し、その研究の独自性や価値について、また研究方法や論述方法に関して気付いたことを発表する。多くの大学院学生が在籍大学の枠を超えた研究会などで分担発表し合っている方法であるが、相当にきついことを覚悟して参加すること。

授業科目名	精神医学特論 (臨床心理学専攻共通科目)	授業形態・単位数	講義・2
		開講年次	1, 2
担当教員	兼任教授	開講期	前期(集中)
	ほしの よしひこ	授業回数	15
	星野 仁彦	期末試験の有無	無
	本務先： 職名：		
開講キャンパス	福島駅前	授業時間以外の必要な学修時間	60 時間
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
修了		選択	
オフィスアワー・メールアドレス等	初回時に説明します。		

<b>【授業の概要】</b> 各種の精神障害一特に発達障害、不安障害(神経症)、うつ病、気分障害、認知症、嗜癖行動、人格障害、統合失調症などの臨床症状、病態と原因、医学的治療法、心理療法、家族療法、行動療法、リハビリテーションなどについて基礎的、臨床的知識を深めます。	<b>【授業の概要との対応項目】</b>		
	<input type="radio"/>	A	知識
		B	技術・技能
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力
	<input type="radio"/>	D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
	<input type="radio"/>	G	協働能力
	<input type="radio"/>	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力
		K	課題対処力
	<input type="radio"/>	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
<b>【授業の到達目標】</b>	<b>【授業の概要・到達目標との対応項目】</b>		
精神医学の基礎的、臨床的知識を身につけ、医療、看護、福祉との連携に関する臨床心理学的知識、観点を修得	目標	A C D G H J K	

<b>【授業計画】</b>			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	発達障害一特に自閉症について	資料(レジュメ)	
2	発達障害一特に注意欠陥/多動性障害について		ビデオ「心のトラブル Vol.3 - 注意欠陥/多動性障害(ADHD)」(30分)
3	発達障害一特にアスペルガー障害について		発達障害について事後学習を行い、状態像・対応等について理解を深めること

4	不安障害 —特にパニック障害、強迫性障害について	資料（レジюме）	ビデオ「心のトラブル Vol.8 —強迫性障害」（30分）、ビデオ「心のトラブル Vol.9 —パニック障害」（30分）	
5	不安障害 —特にPTSD、離人症について			
6	うつ病・気分障害 その①			
7	うつ病・気分障害 その②			
8	認知症 —特に脳血管性とアルツハイマー型について		ビデオ「心のトラブル Vol.1 —アルツハイマー型認知症」（30分）	
9	認知症—その他			
10	依存症、嗜癖行動 —特にアルコール、薬物依存について			
11	依存症、嗜癖行動 —特にギャンブル、買い物、恋愛、過食について		ビデオ「心のトラブル Vol.7 —摂食障害」（30分）	
12	パーソナリティ障害 —特に境界性、自己愛性、反社会性について		ビデオ「心のトラブル Vol.2 —反社会性人格障害」（30分）	
13	パーソナリティ障害 —特に回避性、依存性、強迫性について			
14	統合失調症 —その臨床症状と病態		ビデオ「心のトラブル Vol.12 —統合失調症（精神分裂病）」（30分）	
15	統合失調症 —その医学的治療とリハビリテーション			
期末試験	行わない。			

【到達度の評価（評価方法・基準）】

授業態度（意欲・積極性）40%と毎回の授業内レポート（授業内容の理解度）60%により判断します。

【教科書】

資料（レジюме）を配布します。

【参考書】

書名：改訂第3版 精神保健福祉士養成セミナー第1巻 精神医学

著者名：小阪憲司他（編）

発行所：へるす出版

価格：2,800円＋税

書名：改訂第3版 精神保健福祉士養成セミナー第2巻 精神保健学

著者名：谷野亮爾他（編）

発行所：へるす出版

価格：3,000円＋税

【その他補足事項】

授業科目名	発達障害学特論 I	授業形態・単位数	講義・2
		開講年次	1, 2
担当教員	兼任教授	開講期	後期
	ほしの よしひこ	授業回数	15
	星野 仁彦	期末試験の有無	無
	本務先： 職名：		
開講キャンパス	福島駅前	授業時間以外の必要な学修時間	60 時間
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
修了		選択	
オフィスアワー・メールアドレス等	初回時に説明します。		

<b>【授業の概要】</b> 子ども、思春期、青年期、成年期の発達障害、主に注意欠陥 / 多動性障害 (ADHD)、学習障害 (LD)、自閉症スペクトラム障害 (ASD)、アスペルガー症候群などについて心理学、精神医学を概論し、特別支援教育、福祉などとの多面的、多角的観点から理解をし、サポート、支援、治療の方法を学びます。	<b>【授業の概要との対応項目】</b>		
	<input type="radio"/>	A	知識
		B	技術・技能
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力
	<input type="radio"/>	D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
	<input type="radio"/>	G	協働能力
	<input type="radio"/>	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力
		K	課題対処力
	<input type="radio"/>	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
<b>【授業の到達目標】</b>	<b>【授業の概要・到達目標との対応項目】</b>		
発達障害についての心理学、精神医学、福祉学などを学びます。	目標	A C D G H J K	

<b>【授業計画】</b>			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	正常児の発達	資料 (レジュメ) と関連する DVD, ビデオ	関連図書と教材、文献の予習と復習
2			
3	発達と関連する脳科学とその病理		

4	発達と関連する脳科学とその病理	資料（レジюме）と関連するDVD、ビデオ	関連図書と教材、文献の予習と復習		
5	注意欠陥/多動性障害の病因、症状特徴と治療的アプローチ				
6					
7	学習障害（LD）の病因、症状特徴と治療的アプローチ				
8					
9	低機能（カナー型）自閉症の病因、症状特徴と治療的アプローチ				
10					
11	高機能自閉症・アスペルガー症候群の病因、症状特徴と治療的アプローチ				
12					
13	大人（成人）の発達障害全般の症状特徴と治療的アプローチ				
14					
15	発達障害の自助グループと家族援助				
期末試験	行わない。				

**【到達度の評価（評価方法・基準）】**

各授業の後に提出するレポートと出席日数、豆テストの成績かつ総合的な評価  
レポート 30 点、出席回数 40 点、豆テスト 30 点

**【教科書】**

レジюмеを配布します。

**【参考書】**

- 1) 幼児自閉症の臨床（新興医学出版社） 星野仁彦 著 3914 円
- 2) 学習障害、MBDの臨床（新興医学出版社） 星野仁彦 著 4800 円
- 3) 気づいて！こどもの心SOS（ヴォイス出版） 星野仁彦 著 5600 円
- 4) 発達障害に気づかない大人たち 本編と職場編（祥伝社新書） 星野仁彦 著 いずれも 780 円
- 5) 機能不全家族（アートヴィレッジ） 星野仁彦 著 1524 円

**【その他補足事項】**

授業科目名	発達障害学特論Ⅱ	授業形態・単位数	講義・2
		開講年次	1, 2
担当教員	教授	開講期	後期
	おだ まさあき	授業回数	15
	織田 正昭	期末試験の有無	無
	本務先： 職名：		
開講キャンパス	福島駅前	授業時間以外の必要な学修時間	60 時間
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
修了		選択必修	
オフィスアワー・メールアドレス等	初回時に説明します。		

【授業の概要】 発達障害に関する他の関連科目では主として心理的、精神的な面からの発達障害が講義され論じられているので、本特論Ⅱでは、発達障害についてその発生要因を医学・生物学的な視点に重点を置き講義します。またそれらと公衆衛生、社会との関連性・位置づけについて受講者間の相互討論の時間を積極的に設けます。授業ではビデオ・スライドおよび配布資料をもちいて極力わかりやすく講義します。	【授業の概要との対応項目】		
	<input type="radio"/>	A	知識
		B	技術・技能
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力
		D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
	<input type="radio"/>	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J	多様性への理解力、応用力
		K	課題対処力
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
発達障害の原因、それにいたる背景要因、その後の対応について医学的・生物学的基礎知識をきちんと習得と理解を目指します。	目標	A	K
これらの障害に対する予防、対応策について現状をふまえた討論ができる基礎能力を養います。	目標	C	I
障害児に対する理解を深め、現場で総合的に判断し行動できる保育者養成を目指します。	目標	H	L
【授業計画】			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	発達障害発生の背景と病因論の基礎 ～発達障害の発生病理 (I)	スライドとビデオによる解説をします。講義テーマに関して院生間で討論します。	第1回目は本特論Ⅱの講義全体の概要を頭に入れて、関連する社会的問題を見つけ、それについて自分の意見がのべられるようしてください。
2	発達障害発生の背景と病因論の基礎 ～発達障害の発生病理 (II)		前回の講義を復習し、質問点を整理しておいてください。また講義とビデオ視聴内容について院生間討論に参加できるよう事前に意見・考えをまとめておいてください。
3	物理化学環境と発達障害 (I)		前回の講義を復習し、質問点を整理しておいてください。また講義とビデオ視聴内容について院生間討論に参加できるよう事前に意見・考えをまとめておいてください。

4	物理化学環境と発達障害（Ⅱ）	スライドとビデオによる解説をします。講義テーマに関して院生間で討論します。	前回の講義を復習し、質問点を整理しておいてください。また講義とビデオ視聴内容について院生間討論に参加できるよう事前に意見・考えをまとめておいてください。		
5	染色体異常と発達障害（Ⅰ）				
6	染色体異常と発達障害（Ⅰ）				
7	先天代謝異常・奇形と発達障害（Ⅰ）				
8	先天代謝異常・奇形と発達障害（Ⅱ）				
9	胎内感染と発達障害				
10	感染症と発達障害（Ⅰ）				
11	感染症と発達障害（Ⅱ）				
12	悪性腫瘍（白血病を含む）と発達障害（Ⅰ）				
13	悪性腫瘍（白血病を含む）と発達障害（Ⅱ）				
14	その他の発達障害の背景要因				
15	まとめと討論			スライドとビデオによる解説をします。本講義シリーズについて院生間で総合討論をします。発達障害児の今後について意見を述べあいます。	自分の周りやマスコミで報道される発達障害関連のトピックすにたいしてこれまで以上に関心を持ち続けてください。
期末試験	行わない。				

【到達度の評価（評価方法・基準）】

出席 70%、課題報告 15%、討論意欲 15%の割合で総合評価します。

【教科書】 なし

【参考書】 なし

【その他補足事項】

発達障害に関する論文又は書籍を予め割り振り、適宜紹介して討論材料とします。

授業科目名	発達障害児心理学特論 (臨床心理学専攻共通科目)	授業形態・単位数	講義・2
		開講年次	1, 2
担当教員	教授	開講期	前期
	いたがき けんたろう	授業回数	15
	板垣 健太郎	期末試験の有無	無
	本務先： 職名：		
開講キャンパス	福島駅前	授業時間以外の必要な学修時間	60 時間
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
修了		選択必修	
オフィスアワー・メールアドレス等	初回時に説明します。		

【授業の概要】  発達障害について、その概念、診断、原因、援助原理について学ぶ。履修者がテーマを分担し、関係文献・著書に基づいてレジュメを作成して発表し合うことを中心に授業を展開します。	【授業の概要との対応項目】		
	○	A	知識
		B	技術・技能
		C	論理的思考力
		D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	○	J	多様性への理解力、応用力
		K	課題対処力
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
発達障害児の概念、診断、原因について知る。	目標	A J	
発達障害児に対する援助原理を知る	目標	A J	
発達障害児の家族に対する援助の考え方と援助的関わりについて知る。	目標	A J	
	目標		
	目標		

【授業計画】			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	授業説明 テーマ分担	シラバス使用 「テーマ分担表」	
2	知的障害1：概念、行動特徴	講義(レジュメ使用)	レジュメに基づく、予習と復習
3	知的障害2：原因		



4	知的障害 3：援助原理	講義（レジюме使用）	レジюмеに基づく、予習と復習
5	自閉症スペクトラム 1：用語と概念、行動特徴	発表（レジюме使用） 質疑応答	テーマに関する予習、復習、 発表準備
6	自閉症スペクトラム 2：原因		
7	自閉症スペクトラム 3：査定、診断		
8	自閉症スペクトラム 4：援助原理		
9	注意欠陥多動性障害 1：概念、診断		
10	注意欠陥多動性障害 2：原因・病理		
11	注意欠陥多動性障害 3：援助原理		
12	学習障害：原因・病理		
13	保護者への援助		
14	発表や質疑の補充 1	ディスカッション	テーマに関する予習、復習
15	発表や質疑の補充 2		
期末 試験	行わない。		

【到達度の評価（評価方法・基準）】

担当したテーマについてのレジюмеと発表内容の的確性により評価する。  
遅刻・早退 1 回につき 1 点の減点、欠席 1 回につき 3 点の減点。

【教科書】 なし

【参考書】 文献、書籍は必要に応じて紹介あるいは提供します。

【その他補足事項】

授業科目名	発達障害児心理学演習 (臨床心理学専攻共通科目)	授業形態・単位数	演習・2
		開講年次	1, 2
担当教員	教授	開講期	後期
	いたがき けんたろう	授業回数	15
	板垣 健太郎	期末試験の有無	無
	本務先： 職名：		
開講キャンパス	福島駅前	授業時間以外の 必要な学修時間	60 時間
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
修了		選択必修	
<b>注意) 「発達障害児心理学特論」履修済み者のみ受講可</b>			
オフィスアワー・メールアドレス等	初回時に説明します。		

<b>【授業の概要】</b>  発達障害児の個別療育的セラピー、保護者や兄弟姉妹への援助、他機関との連携の実際について学びます。履修者でテーマを分担し、関係文献・著書を調べ、レジュメを作成して発表し合う形式で進めます。授業内容は基本的には「授業内容」のとおりですが、履修者の臨床に関する知識や経験に応じて、より必要なものに変更していく予定です。	<b>【授業の概要との対応項目】</b>		
	<input type="radio"/>	A	知識
		B	技術・技能
		C	論理的思考力
		D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力
		K	課題対処力
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
<b>【授業の到達目標】</b>	<b>【授業の概要・到達目標との対応項目】</b> (受講して得られる力)		
発達障害の療育的関わりの考え方や実際の方法について理解する。	目標	A J	
発達障害児を持つ家族への援助の考え方や実際について理解する。	目標	A J	
他機関との連携についての考え方や実際について知る。	目標	A J	
	目標		
	目標		

<b>【授業計画】</b>			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	授業説明、テーマの分担		
2	心理臨床相談センターの施設・設備・業務	説明と見学研修	
3	療育的セラピーの考え方	講義(レジュメ使用)	テーマに即した予習と復習

4	療育的セラピーの進め方	講義（レジュメ使用）	テーマに即した予習と復習
5	療育的セラピーの計画とプログラム、記録		
6	自閉症スペクトラム障害児の療育的セラピー 1 ～目的	発表と質疑応答	発表準備
7	自閉症スペクトラム障害児の療育的セラピー 2 ～心理診断		
8	自閉症スペクトラム障害児の療育的セラピー 3 ～内容		
9	注意欠陥多動性障害の療育的セラピー		
10	「問題行動」の捉え方と対処法		
11	心理職と保育職の連携	発表とディスカッション	
12	心理職と他機関の連携		
13	保護者援助		
14	対象でない子ども（兄弟姉妹）への配慮・ケア		
15	補充ディスカッション	ディスカッション	
期末 試験	行わない。		

【到達度の評価（評価方法・基準）】

担当したテーマについてのレジュメと発表内容の的確さにより評価する。

【教科書】 なし

【参考書】 必要に応じて、文献・書籍を紹介、提供します

【その他補足事項】

授業科目名	音楽療法	授業形態・単位数	講義・2
		開講年次	1, 2
担当教員	兼任教授	開講期	後期
	さとう あつこ	授業回数	15
	佐藤 敦子	期末試験の有無	無
	本務先：	職名：	
開講キャンパス	福島駅前	授業時間以外の必要な学修時間	60 時間
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
修了		選択必修	
オフィスアワー・メールアドレス等	初回時に説明します。		

<b>【授業の概要】</b> 音楽療法の歴史、定義、対象についての知識を深めます。心身障害児（者）や高齢者に対する音楽療法、災害時における音楽療法にも焦点を当てて、対象の理解、目標設定、音楽療法の組み立て方、扱われる活動（歌唱、楽器、身体表現）について学びます。 授業は演習形式で行います。	<b>【授業の概要との対応項目】</b>		
		A	知識
	<input type="radio"/>	B	技術・技能
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力
		D	文章表現力
	<input type="radio"/>	E	表情及び身体表現力
	<input type="radio"/>	F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
	<input type="radio"/>	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J	多様性への理解力、応用力
		K	課題対処力
<input type="radio"/>	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
<b>【授業の到達目標】</b>	<b>【授業の概要・到達目標との対応項目】</b>		
音楽療法における基礎的な事項についての知識を習得します。	目標	B	
音楽療法の概念、歴史、対象を説明するとともに、心身障害児や高齢者に対する音楽療法に焦点を当てて理論、実践の両面から音楽療法の実際を学びます。	目標	C E F H J	

<b>【授業計画】</b>			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 音楽療法概論 ・音楽療法の歴史、定義、対象	プリント配付	音楽療法の定義について調べておきましょう
2	子どもの音楽療法について		子どもの音楽療法について調べておきましょう
3	高齢者の音楽療法について		高齢者の音楽療法について調べておきましょう

4	音楽療法の実践（楽器と歌唱）	演習	音楽療法で使用する楽器等について調べておきましょう
5	音楽療法の実践（楽器と歌唱） （トーンチャイムも含む）		ハンドベル、トーンチャイムについて調べておきましょう
6			
7	グループまたは個人発表		個人およびグループ発表ができるようにしておきましょう
8	音楽療法の実践（歌唱と動き）		音楽療法のアチーブメント療法について調べておきましょう
9	音楽療法の実践（楽器と歌唱）		配付したプリントの自学学習をしておきましょう
10	ゲストスピーカーによる講義	講師：渡邊多佳子（福島県立医科大学臨床教授、むつみ脳神経・耳鼻科クリニック副院長）	子どもや高齢者の音楽療法について復習しておきましょう
11	ホスピスケアに関する知識を学ぶ	DVD 鑑賞	ホスピスケアについて調べておきましょう
12	音楽療法の実践（楽器と歌唱）	演習	配付したプリントの自学学習をしておきましょう
13	災害時の音楽療法について	13, 14 コマは、連続で、日曜日に仮設住宅（福島市笹谷）を訪問します。	災害時の音楽療法について調べておきましょう
14			
15	まとめ	個人またはグループ発表	発表の準備をしておきましょう
期末試験	行わない。		
<p><b>【最終レポートの講評】</b> 最終レポートの評価後、希望者には、講評をオフィスアワー等を通じて行います。</p>			
<p><b>【到達度の評価（評価方法・基準）】</b> （1）グループまたは個人発表 50% （2）授業への参加意欲・参加態度 30%（積極的に歌唱しなかったり、楽器演奏しなかった者には 1 回につき 1 点減点） （3）出席状況 20%（6 回以上欠席した場合については単位を認定しません。）</p>			
<p><b>【教科書】</b> その都度プリント配付します。</p>			
<p><b>【参考書】</b> 授業にてその都度紹介します。</p>			
<p><b>【その他補足事項】</b> ・ 仮設等を訪問するので指示をよく聞いてください。（交通費自己負担となります。）</p>			

授業科目名	自由研究 I	授業形態・単位数	講義・2
		開講年次	1
担当教員	教授	開講期	前期
	たなべ みのる 田辺 稔	授業回数	15
	うめみや れいか 梅宮 れいか	期末試験の有無	無し
	本務先： 職名：		
開講キャンパス		授業時間以外の 必要な学修時間	60 時間
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
修了		選択	
オフィスアワー・メールアドレス等	オリエンテーション時に配布した連絡先でアポイントメントを取ってください。		

<b>【授業の概要】</b>  自らの興味を論文にまとめることを目的とします。  論文の形式は、修士論文のフォームに従い、おおむね 20000 字です。  履修登録は、担当教員を指定して行ってください。そのとき、自分の興味とする内容が、次ページに明記されている各教員の対応分野に合っているか注意してください。微妙な場合は、履修を希望する担当教員と相談の上、履修登録をしてください。	<b>【授業の概要との対応項目】</b>	
	<input type="radio"/>	A 知識
		B 技術・技能
	<input checked="" type="radio"/>	C 論理的思考力
	<input checked="" type="radio"/>	D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力	
<b>【授業の到達目標】</b>	<b>【授業の概要・到達目標との対応項目】</b> (受講して得られる力)	
課題意識、問題意識を明確に設定する力	目標	A
文献や資料は適切に収集する力	目標	A
論文の形式を踏まえて書く力	目標	D
論理的で一貫性のある論述、説明をする力	目標	C I

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	ガイダンス		テーマのメモを持参すること
2	テーマの決定	担当教員の下、指導を受けながら独自に文献、論文等の検索をし、取り組むテーマと作成論文の設計を行う。	時間外に文献検索を行い、その経過を報告すること。文献ノートを作り、独自にまとめて論文執筆に備えること。
3			
4			
5			
6			
6	論文の執筆	テーマと設計をもとに、論文を書き進める。なお、毎週進捗状況報告と個別の指導を受けること。	論文の執筆。  14 コマ終了時には提出のこと。
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
15	提出論文のプレゼンテーション	提出論文の概略について、プレゼンする	プレゼンテーションの準備
期末試験		行わない。	
【提出論文の講評】 提出論文の評価後、希望者には、講評をオフィスアワー等を通じて行います。			

【到達度の評価 (評価方法・基準)】

- (1) 論文の体裁：20 点満点
- (2) 論の正確さ：10 点満点
- (3) 文献収集の妥当性：10 点満点
- (4) 内容：30 点満点
- (5) テーマへの取り組み、学修姿勢：20 点満点
- (6) プレゼンテーション：10 点満点

以上を合計し 100 点満点とします。

尚、評価に関する共通理解に則り上記点数より減点をする場合があります。

【受け入れる分野】

田辺稔 教授 「個人差」(但し個性記述的アプローチでは無く、法則定立的観点による理解)

・参考文献

W. ミシェル・Y. ショウダ・O. アイダック 著 黒沢香/原島雅之監訳 パーソナリティ心理学、培風館、¥7,600 + 税

梅宮れいか 教授 「アイデンティティ」

・参考文献

エリクソン .E.H. 著 西平直, 中島由恵訳 アイデンティティとライフサイクル、誠信書房 ¥3,500 + 税

【履修に当たっての注意】

田辺稔 教授 履修登録前に、予定しているテーマについて妥当かどうか、相談、確認する機会を設けてください。修士論文の執筆要項に準じ、A4 版用紙で本文 17 ページ以上程度の量を目安とします。

梅宮れいか 教授 提出は、ワープロ打ち、横書き、紙媒体で行ってください。フォーマットは修士論文のものに準拠します。文字数は 20000 字以上 24000 字以内です。フォーマット、文字数を満たしていないものは受け付けません。

【その他補足事項】

「自由研究Ⅰ」を合格しないで「自由研究Ⅱ」は選択できません。

調査、観察、面接等の倫理的な問題が生じる可能性のある研究方法を採る予定の場合は事前に申し出、倫理に関する指導を受けてください。

授業科目名	自由研究Ⅱ	授業形態・単位数	講義・2
		開講年次	1
担当教員	教授	開講期	後期
	たなべ みのる 田辺 稔	授業回数	15
	うめみや れいか 梅宮 れいか	期末試験の有無	無し
	本務先：	職名：	
開講キャンパス		授業時間以外の 必要な学修時間	60 時間
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
修了		選択	
オフィスアワー・メールアドレス等	オリエンテーション時に配布した連絡先でアポイントメントを取ってください。		

<p><b>【授業の概要】</b></p> <p>自らの興味を論文にまとめることを目的とします。</p> <p>論文の形式は、修士論文のフォームに従い、おおむね 20000 字です。</p> <p>履修登録は、担当教員を指定して行ってください。そのとき、自分の興味とする内容が、次ページに明記されている各教員の対応分野に合っているか注意してください。微妙な場合は、履修を希望する担当教員と相談の上、履修登録をしてください。</p>	<b>【授業の概要との対応項目】</b>	
	<input type="radio"/>	A 知識
		B 技術・技能
	<input checked="" type="radio"/>	C 論理的思考力
	<input checked="" type="radio"/>	D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
<b>【授業の到達目標】</b>	<b>【授業の概要・到達目標との対応項目】</b> (受講して得られる力)	
課題意識、問題意識を明確に設定する力	目標	A
文献や資料は適切に収集する力	目標	A
論文の形式を踏まえて書く力	目標	D
論理的で一貫性のある論述、説明をする力	目標	C I



回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	ガイダンス		テーマのメモを持参すること
2	テーマの決定	担当教員の下、指導を受けながら独自に文献、論文等の検索をし、取り組むテーマと作成論文の設計を行う。	時間外に文献検索を行い、その経過を報告すること。文献ノートを作り、独自にまとめて論文執筆に備えること。
3			
4			
5			
6			
6	論文の執筆	テーマと設計をもとに、論文を書き進める。なお、毎週進捗状況報告と個別の指導を受けること。	論文の執筆。  14 コマ終了時には提出のこと。
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

期末試験	行わない。
【提出論文の講評】 提出論文の評価後、希望者には、講評をオフィスアワー等を通じて行います。	

<p><b>【到達度の評価 (評価方法・基準)】</b></p> <p>(1) 論文の体裁：20 点満点                  (2) 論の正確さ：10 点満点                  (3) 文献収集の妥当性：10 点満点                  (4) 内容：30 点満点                  (5) テーマへの取り組み、学修姿勢：20 点満点                  (6) プレゼンテーション：10 点満点</p> <p>以上を合計し 100 点満点とします。                  尚、評価に関する共通理解に則り上記点数より減点をすることがあります。</p>
--

<p><b>【受け入れる分野】</b></p> <p>田辺稔 教授 「個人差」(但し個性記述的アプローチでは無く、法則定立的観点による理解)                  ・参考文献                  W. ミシェル・Y. ショウダ・O. アイダック 著 黒沢香/原島雅之監訳 パーソナリティ心理学、培風館、¥7,600 + 税</p> <p>梅宮れいか 教授 「社会化」                  ・参考文献                  T. パーソンズ、R.F. ベールズ 著、橋爪 貞雄ほか訳、家族—核家族と子どもの社会化、黎明書房 ¥8,900 + 税</p>
---

<p><b>【履修に当たっての注意】</b></p> <p>田辺稔 教授 履修登録前に、予定しているテーマについて妥当かどうか、相談、確認する機会を設けてください。修士論文の執筆要項に準じ、A4 版用紙で本文 17 ページ以上程度の量を目安とします。</p> <p>梅宮れいか 教授 提出は、ワープロ打ち、横書き、紙媒体で行ってください。フォーマットは修士論文のものに準拠します。文字数は 20000 字以上 24000 字以内です。フォーマット、文字数を満たしていないものは受け付けません。</p>
--

<p><b>【その他補足事項】</b></p> <p>「自由研究Ⅰ」を合格しないで「自由研究Ⅱ」は選択できません。                  調査、観察、面接等の倫理的な問題が生じる可能性のある研究方法を採る予定の場合は事前に申し出、倫理に関する指導を受けてください。</p>
--

授業科目名	課題研究 I	授業形態・単位数	演習・2
		開講年次	2
担当教員	教授	開講期	前期（時間割外）
	たなべ みのる 田辺 稔	授業回数	
	にしむら まなぶ 西村 學	期末試験の有無	
	いたがき けんたろう 板垣 健太郎		
うめみや れいか 梅宮 れいか			
おだ まさあき 織田 正昭			
	本務先：	職名：	
開講キャンパス		授業時間以外の 必要な学修時間	
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
修了		必修	
オフィスアワー・メールアドレス等	オリエンテーション時に配布した連絡先でアポイントメントを取ってください。		

<b>【授業の概要】</b>  修士論文作成の指導。  同時に、修論指導会で指導を受けてください。	<b>【授業の概要との対応項目】</b>	
	<input type="radio"/>	A 知識
		B 技術・技能
	<input checked="" type="radio"/>	C 論理的思考力
	<input checked="" type="radio"/>	D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input checked="" type="radio"/>	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力	
<b>【授業の到達目標】</b>	<b>【授業の概要・到達目標との対応項目】</b> (受講して得られる力)	
課題意識、問題意識を明確に設定する力	目標	A
文献や資料は適切に収集する力	目標	A
論文の形式を踏まえて書く力	目標	D
論理的で一貫性のある論述をする力	目標	C
媒体を的確にもちい、論理的で分かりやすすプレゼンテーションをする力	目標	I

**【到達度の評価（評価方法・基準）】**

(1) 研究姿勢：100 点満点で評価します。

尚、評価に関する共通理解に則り上記点数より減点をすることがあります。

**【その他補足事項】**

「課題研究Ⅰ」を合格しないで「課題研究Ⅱ」は履修できません。

調査、観察、面接等の倫理的な問題が生じる可能性のある研究方法を採る予定の場合は事前に申し出、倫理に関する指導を受けてください。

授業科目名	課題研究Ⅱ	授業形態・単位数	演習・2
		開講年次	2
担当教員	教授	開講期	後期（時間割外）
	たなべ みのる 田辺 稔	授業回数	
	にしむら まなぶ 西村 學	期末試験の有無	
	いたがき けんたろう 板垣 健太郎		
うめみや れいか 梅宮 れいか			
おだ まさあき 織田 正昭			
	本務先：	職名：	
開講キャンパス		授業時間以外の 必要な学修時間	
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
修了		必修	
オフィスアワー・メールアドレス等	オリエンテーション時に配布した連絡先でアポイントメントを取ってください。		

<b>【授業の概要】</b>  修士論文作成の指導。  この授業は、修士論文合格をもって単位の認定とします。	<b>【授業の概要との対応項目】</b>	
	<input type="radio"/>	A 知識
		B 技術・技能
	<input checked="" type="radio"/>	C 論理的思考力
	<input checked="" type="radio"/>	D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
<b>【授業の到達目標】</b>	<b>【授業の概要・到達目標との対応項目】</b> (受講して得られる力)	
課題意識、問題意識を明確に設定する力	目標	A
文献や資料は適切に収集する力	目標	A
論文の形式を踏まえて書く力	目標	D
論理的で一貫性のある論述をする力	目標	C
	目標	

**【到達度の評価（評価方法・基準）】**

(1) 研究姿勢：100 点満点で評価します。単位認定には、修士論文の合格を条件とします。

尚、評価に関する共通理解に則り上記点数より減点をすることがあります。

**【その他補足事項】**

「課題研究Ⅰ」を合格しないで「課題研究Ⅱ」は履修できません。

調査、観察、面接等の倫理的な問題が生じる可能性のある研究方法を採る予定の場合は事前に申し出、倫理に関する指導を受けてください。

授業科目名	修士論文	授業形態・単位数	論文審査
		開講年次	最終学年
担当教員	教授	開講期	提出された論文の 審査と口頭試験
	たなべ みのる 田辺 稔	授業回数	
	にしむら まなぶ 西村 學	期末試験の有無	
	いたがき けんたろう 板垣 健太郎		
うめみや れいか 梅宮 れいか			
	おだ まさあき 織田 正昭		
	本務先：	職名：	
開講キャンパス		授業時間以外の 必要な学修時間	
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
修了		必修	
オフィスアワー・メールアドレス等	オリエンテーション時に配布した連絡先でアポイントメントを取ってください。		

<b>【授業の概要】</b>  修士課程で学修した成果を修士論文としてまとめ、 1、論文構成力（論文を書く力） 2、プレゼンテーション力 3、口頭による質疑応答対応力 4、研究に関する態度 が修士の学位を受けるに達していることを示す。	<b>【授業の概要との対応項目】</b>		
	◎	A	知識
		B	技術・技能
	◎	C	論理的思考力
	◎	D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	○	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J	多様性への理解力、応用力
		K	課題対処力
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
<b>【授業の到達目標】</b>		<b>【授業の概要・到達目標との対応項目】</b> (受講して得られる力)	
課題意識、問題意識を明確に設定する力	目標	A	
文献や資料を適切に収集する力	目標	A	
論文の形式を踏まえて書く力	目標	D	
論理的で一貫性のある論述をする力	目標	C	
科学的根拠にもとづき、説得力のあるプレゼンテーションをする力	目標	I	

**【到達度の評価（評価方法・基準）】**

提出された論文を評価します（成果評価）。評価の観点は以下の通りです。

- (1) 課題意識、問題意識は明確か
- (2) テーマに関する理解が的確に成されているか
- (3) 目的は明確か（絞り込まれているか）
- (4) 研究方法は妥当か
- (5) 文献や資料は適切で十分か
- (6) 論文の形式を踏まえて書かれているか
- (7) 論理的で一貫性のある論述となっているか
- (8) 一定の量になっているか
- (9) オリジナルのものであるか
- (10) 論文執筆の基本ルールや研究倫理を守っているか

口述試験（試験）では次の観点で審査をします。

- (1) 修士論文に関するプレゼンテーションが的確にできること
- (2) 論文執筆に関する基礎的な知識があること

審査会は、主査、副査 2 名の計 3 名で構成し、専攻会議で決定した後、学長から委嘱された教員が行います。審査会では、論文内容と口述試験の 2 点で修士論文を評価します。提出された論文が合格基準を満たしていない場合には修正を求めます。期日までに再提出してください。再提出がない場合は、自動的に不合格となります。また、修正が不十分な場合も不合格となります。

そのほか作成様式や提出部数などは学生便覧を熟読してください。

**【その他補足事項】**

自らの課題意識に基づきテーマを設定し、一連の研究過程を自ら実施し、その成果を、論文としてまとめ提出してください。自主的、自発的な学習として進めることとします。

調査、観察、面接等の倫理的な問題が生じる可能性のある研究方法を採る予定の場合は事前に申し出、倫理に関する指導を受けてください。

5, 6, 7, 9, 10, 11 月に修士論文指導会が開催されます。レジメによる発表を通して指導を受けてください。

修士論文指導会での発表はエントリー制です。指導を受ける段階に至ったと判断した場合、または研究指導教員から指示があった場合には、エントリーをして指導を受けてください。

